

暑中お見舞い申し上げます。

みなさま、お健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

暑い毎日でございますが、この暑さあればこそ稲は根を張りおいしいお米ができます。日本女性は肌が美しいと言われるますが、湿度があればこそ！でございます。うだる暑さに感謝して過ごしましょう。

一般財団法人親学推進協会のメールマガジン第78号(7月15日発行)から、「会長 高橋史朗先生 近況報告」と題した一文をご紹介します。

高橋史朗先生の近況ご報告

6月19日に広島県親学推進協会、7月2日に広島で開催された第40回日本小児皮膚科学会学術大会で親学について特別講演させていただいた。広島県では県警本部主催の講演会を2年連続してさせていただいたが、非行やいじめの対症療法に限界を感じ、幼児教育、家庭教育対策を縦割り行政の壁を打破して取り組みたいとの狙いで、教育委員会をはじめとする多くの行政関係者の幹部が結集されて、講演会后、画期的な協議が行われた。

7月2日には、全国から小児科医、皮膚科医が300人以上結集したが、同学会の会頭挨拶によれば、「日本小児皮膚科学会は、皮膚科医と小児科医一堂に会し、小児おける皮膚疾患を巡り様々な知見の発表と議論をする場として歴史を重ねてきました。・・・子供を育て、発達を支援するためには、それを担う親たちとの関わりも避けては通れません。本大会では、小児科医にとっていわば当然の前提である小児の発達、親のあり方を、小児皮膚を診る皮膚科医も共々に学び、深めたい」の趣旨で、特別講演を依頼された次第である。

親学への批判的報道もある中で、批判的な感想や質問が寄せられるのではないかと懸念されたが、そのような感想や質問は皆無であった。講演会後の懇親会では50人以上の専門医から声をかけられ、名刺交換をさせていただいたが、親学に疑問を持ったり反発した方は一人もいなかった。一時期インターネット上で広がった「親学トンデモ説」の誤解は、専門医のレベルでは既に乗り越えられていることが明らかになった。



反発どころか、親学の趣旨に全面的に賛同する感想ばかりで、次のような声が寄せられた。「子ども手当」は実際には「親手当」になってしまっているから、私が講演で強調した「子供の最善の利益」を保障するものとなるようにしてほしい。祖母が医者から子供に薬と一緒に飲ませるように指示された白湯(さゆ)を知らず、コンビニに買いに行ったという実例があるという。親学のみならず祖父母学が必要だ。私が講演で指摘した「コンビニ保育」と同様、経済的支援一辺倒で、親に全く関与させないために、我が子の病状を心配して、我が子とコミュニケーションを取ろうとしない親が増えており、このような「コンビニ病児保育」を厚生労働省が推進し、急

増していることは大問題だ、等々。

私の特別講演の演題は「親育ち支援の課題」で、その要旨は以下の通りである。

道徳の教科化に先立ち、文部科学省は「子どもの徳育に関する懇談会」を設置し、発達段階に応じた道徳教育の在り方について検討した。ハーバード大学のカガン教授の「気質に関連した道徳性の発達段階説」によれば、「共感・恥・罪悪感などの情動」が育つのは「二歳の終わり頃」であるという。

また、国が策定した「教育振興基本計画」は OECD の「主要能力」やユネスコの「持続発展教育」(ESD) などの一貫した理念で「縦の接続」を図り、発達段階に応じて「自立の基礎」を育てる必要があると強調している。

「自立の基礎」となるのは、「人間力」の中核である「対人関係能力」と「自己制御能力」であり、前者は家庭における愛着という母性的慈愛、親との一体感に基づく共感性をベースに育成され、後者は愛着からの分離という父性的義愛によって育つものである。

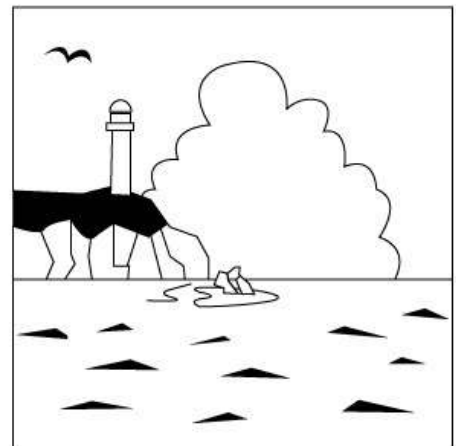
全国に広がった「学級崩壊」の背景には、この「対人関係能力」と「自己制御能力」の未発達という子どもの発達上の問題点があることが保育士アンケートによって明らかにされているが、それは「親としての成長、発達」と関係があるという。

わが国の従来「少子化対策としての子育て支援策」は、働く女性の子育て負担を保育サービスの量的拡大によって軽減することが主目的となり、「親としての成長、発達」を支援するという「親育ち」支援の視点が欠落していた。

改正教育基本法第十条は、父母その他の保護者の「第一義的責任」として、「自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする」と明記している。

埼玉県ではこうした観点を踏まえ、従来縦割り行政を排する「発達支援プロジェクト」を立ち上げ、発達障害を早期発見、早期支援できる人材の育成と親支援に力を入れ、支援の縦の接続と横の連携をシステム化し、大きな成果を上げている。

7月にはパリとロンドン、8月にはサンフランシスコ、ロサンゼルス、ワシントン、ニューヨーク、トロントを訪れ、ユネスコ記憶遺産登録史料とウォーギルト・インフォメーション・プログラムを中心とする第一次史料の本格的研究に専念するので、これまで本メルマガに連載してきた会長報告は、これらの研究成果を世に問うまで休載させていただきますので、ご了承下さい。



3段落目のところで当時の喧噪を思い出しました。4年数ヶ月前、中予の私立幼稚園協会の集まりで親学講演会の案内をさせていただくべく、ちらしをお配りして待機しておりましたとき、ある園長先生がちらしを指して「この人が、発達障害は親の愛情不足だと言った」というようなことを小声で言われ、聞かれた園長先生が「そんなひどいこと言うたんかな」と応答されていたこと。講演会を後援してくれていた県の子育て支援課からはメディアの記事について説明を求められ、遠来の客人を放っておいて資料を揃え県庁に飛んで行ったこと。「そんなひどいことを」の園長先生の園には一番にご案内に行かせていただき、その後はめぐす会ランチ学習会にゲストとしておいで下さり現場のお話を聞かせて下さったり、親守詩大会には園を挙げて取り組んで下さいました。

少子化・地方消滅克服政策」に転換せよ

日本政策研究センターが発行している「明日への選択」誌5月号に、民間団体の政策提言「持続可能な家族・世代・地域を取り戻す」をまとめられた明治大学の加藤彰彦教授のインタビュー記事がございました（p.24~p.29）。6ページにわたるインタビュー記事のなかから、「『親手当』で子供を沢山産んでもらう」という小見出しのところをご紹介します。親手当受給の条件として「親役割を学ぶ教室や行事への参加を義務づける」というところにご注目下さい。

家庭や職場の環境整備を主旨とする従来の「少子化社会対策」では不十分です。それは少子化対策を謳いながら、中身は保育所の拡充や育児休業、仕事と子育ての両立支援といった福祉政策・労働政策で、積極的な家族形成支援を欠いているからです。そこから抜本的に転換し、出生数向上や結婚・家族形成をより直接的に支援する「家族人口政策」を私たちは提言しています。

現在、わが国の出生数は年間百万人です。目指すのはこの百万人ラインの維持です。これを維持すれば、2040年までに政府の言う「希望出生率1.8」を回復し、2050年頃には人口を維持できる「合計出生率2.1」の水準を完全に回復し、人口ピラミッドも逆三角形を免れて安定感を取り戻すことができます。

ここから先はそれを実現するための具体策ですが、「親手当政策」「孫ターン政策」「子ども・子育てシェルター」という三つの柱を掲げました。

まず最も大きな柱となるのが、私が以前から提唱してきた「親手当政策」です。これは親業を評価し、とくに多子志向の夫婦を支援して3人目、4人目を産み育ててもらおうというものです。

なぜ多子志向の夫婦を支援するのかといえば、人口を維持するには平均2人の子供が必要だからです。一方で子供が0人、1人の人たちがいれば、他方で子供が3人、4人の人たちがいないと平均で2人になりません。つまり、子供3人以上の多子家族を増やすことこそが、少子化を克服する決め手なのです。

そこで今回の提言では、第3子以降1人当たり総額1千万円の「子育て負担調整金」を給付して家族形成を支援する政策を掲げました。

1千万円というと大抵の方は驚くと思いますけれども、給付期間は10年間ですから、1人あたりの月額ではパートの給与水準程度です。第3子、第4子を産み育てることは、社会貢献そのものですから、決して高額の給付ではありません。なお、実際の給付は10年分割払いとします。これには一部の親が金銭目的で子供を産んで子育ては放棄するといった悪用を防止する意味もあります。受給条件にも乳幼児の定期検診や親役割を学ぶ教室や行事への参加を義務付けるべきでしょう。ほかに、現在児童手当を受給している人々に対応して、第3子以降に加算する調整プランも提言には盛り込みました。

ちなみに現行の児童手当から親手当政策に転換した場合に、追加で必要な財源は約1.7兆円と試算しています。これは「子育て負担調整所得税」の新設によって賄います。同時に、子供数による特別控除を実施し、無子層・少子層から多子層への再分配を行い、子育ての経済的負担を平等化

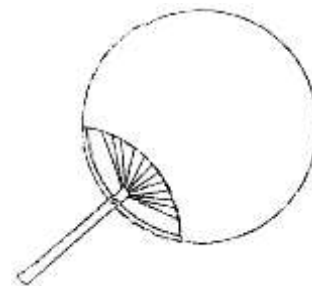
親学基礎講座のご案内

教育の原点は家庭にあり！親が育てば子供は育つ！発達段階に応じた母性的かかわり、父性的かかわりについて学びましょう。

ご自分の子育ての問題を解決したい方。仕事に役立てたい方。周りに困っている人がいるのにどうしたらいいのかわからなくて、そのヒントを学ぼうと考えている方。脳科学が後押しする親学をともに学びましょう。

開催要領

日時：平成28年10月16日（日曜日）
 会場：砥部町文化会館 3階 視聴覚室
 受講料：12,000円（お支払いは当日会場にて）
 テキスト：「親学の教科書」（1,728円）
 ♪切り：10月9日（日）



基礎講座のプログラム

講座	テーマ	内容	講師
9:20～	オリエンテーション		
第1講座 9:30～ 11:00	「親学」とは何か	親学の意味・背景・必要性や親学の三本柱について	明星大学特別教授 親学推進協会会長 高橋史朗先生
第2講座 11:10～ 12:30	子供の発達と親の関わり方	脳科学・心理学の知見に基づく子供の発達課題と親の関わり方について	神戸女子短期大学教授 医学博士 平野直美先生
第3講座 13:30～ 14:50	親として大切なこと	主体変容、人間力、自己成長のポイント。父性的・母性的な関わりについて	親学推進協会理事 杉本哲也先生
第4講座 15:00～ 16:40	親子のコミュニケーション	子供の心を受け止め、親の心を伝える態度と表現法について	杉本哲也先生
16:40		修了書交付・アンケート記入	

アドバイザーがお勧めします！

4月10日&17日に親学アドバイザー認定講座を開講いたしました。この認定講座は基礎講座修了者が受

講でき、レポート審査のうえアドバイザーに認定されます。この度は中四国から12名が受講、愛媛県下ではあらたに5名のアドバイザーが誕生いたしました。アドバイザーからのメッセージです。

★☆☆清家かおる先生 ～ スクールカウンセラー（中学校・高等学校）



中学校や高等学校のスクールカウンセラーをさせていただいて、最近次のようなことを感じています。価値観が多様化し、IT化により情報過多になっているので、子育ての仕方を選択肢が多くなっています。そのために、迷い悩んでいる保護者の方が増えているように思います。また、学歴社会の考え方が顕在し、少子化や、地域社会とのつながりが希薄なことも相まって、精神的孤立をしている母親も多いようです。母親自身が生真面目であったり、人付き合いが得意でなかったりするために、苦しんでいる方も見受けられます。そのような保護者の方に対して、「今まで、いろいろな勉強をされてきたと思いますが、子育てに関する勉強は、あまりしていないのではないのでしょうか？子育ては、『自分育て』と言われるように、親自身のステップアップの良い機会と捉えられると、視野が広がり、ポジティブに物事を捉えられるようになります。」と提案しています。

私自身、子育てを自分の責任として捉えているときは、不安や悩みが多かったです。しかし、「わからないことは、学べばいい！」と考え方を变更后からは、気分が楽になり、自分らしさを活かした子育てができるようになったと思います。その時に、日本の子育ての長所を綴った親学の本は、とても参考になりました。子育てを親自身の第2成長期と考えて、良い学びをされることをお勧めします。

★☆☆井上武先生 ～ 愛南町立久良小学校教諭

先日、ある保護者の方から相談を受けました。子どもの習い事に関する相談です。これまでの私なら、教師としての経験則を頼りにお答えをしていました。あくまで、経験則です。しかし、親学を学び、親学アドバイザーとなった今、親学の理論をもとにお話をする事ができます。

親学の基本的な考え方に「父性原理」と「母性原理」があります。きわめて簡単に言うと、父性原理とは厳しさのことで母性原理とはやさしさのことです。例えば、子どもが習い事を嫌がるけれども続けさせた方がよいかという相談を受けたとき、「一度始めたことは続けさせた方がよい」という答え方、「子どもが嫌がることを無理にさせる必要はない」という答え方があります。どちらが父性原理でどちらが母性原理かは分かるでしょう。親学を学んでいると、子どもの発達段階や育ち方、ご家族の様子を考慮して、適切なアドバイスをすることができます。一緒に親学を学びませんか。



★☆☆越智美香子先生 ～ 西条市・公立小学校 支援員



親学の主眼である主体変容を学ぶことで、他を変えようとあせる気持ちがなくなりました。障害は誰も持つ発達凸凹として捉え、常に自己を磨き、他を寛容に信じ、観ることによって、その子の持つ本質的良さを発見して、苦勞も喜びや楽しみとして捉えることができました。

★☆☆渡邊真由美先生 ～ 保育教諭 高知県南国市・平成学園

私は親学を学び、全ては「主体変容」だということを知り、今までの自分の考えを変えることができました。そして、相手の立場に立って考え、気持ちに寄り添うことで、今まで「なぜこの保護者はわかってくれないんだろう？」と悩んでいたこと自体が自分中心だったということに気がきました。すると、自分自身とても前向きになり、又他人ではなく自分が変わろうと思えば自然と相手も変わっていくことが増えてきました。

又、保護者に対しても、「親が変われば、子供も変わる」という考え方を伝えることで、親が子供に与える影響の大きさを認識し、親が変わることの大切さを伝えていきたいと思います。そして、子供がしたことに対してプラスの言葉掛けができるように、今後も親学アドバイザーとして具体的にどのようにしたら良いのかアドバイスできるように学びを深めて参りたいと思います。



☆☆ 森岡容子さん ~ 主婦 松山市

次男（中 2）とはよくけんかしたものだ。原因は決まってゲーム。ゲームばかりする息子に、見るたびに腹が立ち、「またゲームばかりして。宿題したの」とゲームを取り上げると、「うるさいんよ」言い返し、けんか。

そんななか、親学講座を受けないかと誘われ軽い気持ちで受講した。「親が変われば子が変わる」、見方を変えて「ありのままのあなたが素晴らしいと認める」のことばが心に響いた。元気なだけでもありがたい。勉強して良い学校へ行くと親のエゴを押し付けていた自分がいた。

今ではゲームをしてもさほど怒らなくなったし、息子も時間を決めてやっているようだ。けんかも減り、「あんたはいい子ね」と褒めることも増えると息子も変わった。「親が変われば子も変わる」主体変容は子育てに大事だ。



☆☆ 旭明美さん ~ 介護職 四国中央市

昨夏、文化講演会で、「あなたの笑顔は私の笑顔」というテーマでご自分のお母様を介護された岐阜県の村井俊雄講師による体験を楽しく聞かせていただきました。相手の気持ちに気付き接し方を変えただけで、70%以上の認知症が改善されると話されていました。見方が変わればあなたが変わる。あなたが変われば介護が変わる。すべて自分の心を周りの世界を通して見るだけ。今が最高の喜びだと思って接すると相手にも伝わる。

親学は対象が子供ですが、「主体変容」は自分が関わらせていただく全ての方々に真理であると思いました。我が家にも96歳になる母と一緒におります。家庭においても職場においても実践させていただいております。



親学アドバイザーとは

親学アドバイザーになりますと、アドバイザー研修会に参加することができます。ちなみに第1回の研修会は、

10月16日（日）の午前中に基礎講座の裏で開催され、高橋史朗先生と杉本哲也先生のご指導をいただきます。一般の方々が対象の講演会ではお聞きできないお話をお聞きできます。

親学アドバイザーの使命につきまして、「親学アドバイザーの手引き」の高橋先生の「あとが

き」から抜粋いたします。

「親学推進協会」を推進母体として、全国各地で「親学講座」を開催し、アンケートなどの受講者の声を参考にしながら、新たな教材や資料の開発、本書の改訂や副教材などについても検討していきたいと思ひます。

親心の崩壊、家庭の機能不全……。多くの人びとが教育の中心課題に気づきながら声をあげることができず、学校教育に問題あり、と学校や教師を責めることで、お茶を濁してきました。長年のメディアによる攻撃とそれに乗せられた親たちによって学校現場はやる気を殺がれ、最近では、親による監視や攻撃によって、実際に子どもに向き合っている教師たちが疲弊し、内向きになってしまう風潮がつくられつつあることは、由々しき事態だといわざるを得ません。

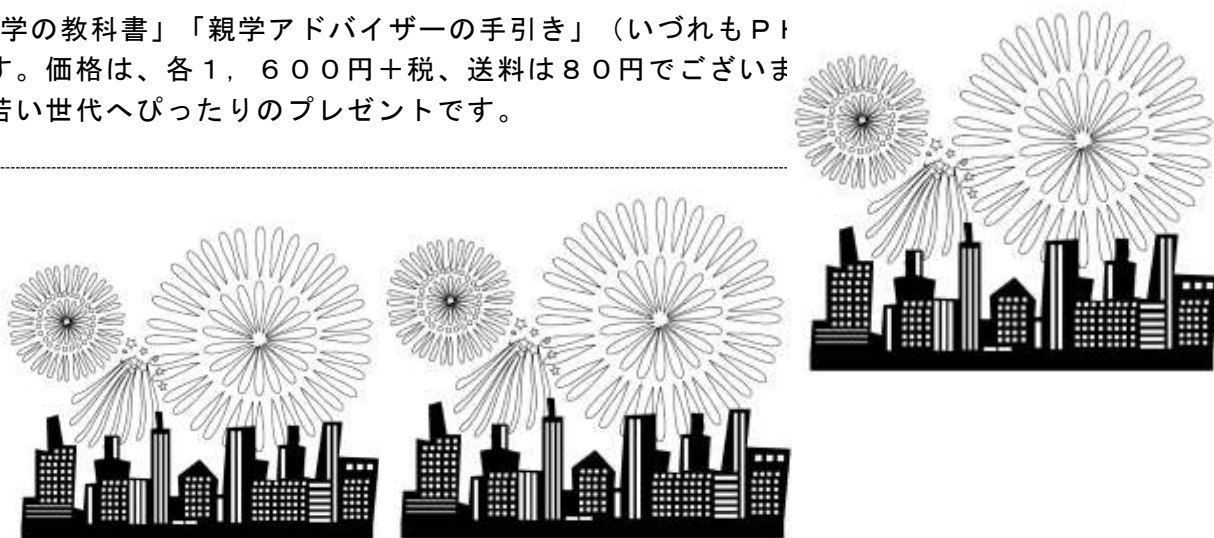
学校の教師は基本的には子どもの成長のために努力しています。これを支えていくのが家庭の役割であり、仮に教師に問題があったとしても、子どもを励まし、やる気を出させていくのが親の役割です。近年さかんに教育界が発信する「学校・家庭・地域」の連携とは、子どもをもつ家庭が主体となつてはじめて実現できるものなのです。

私たちは、家庭教育の限りない使命を自覚して、次代を担う子どもたちのためにすすんで学校や地域の方々と手を携えて、親としての研鑽の場を生み出し、家庭からわが国の明るい展望を生み出していきたいと思ひます。

家庭教育の再生なくして日本の教育は再生できません。家庭からの教育再生が時代の要請です。その意味で、親学アドバイザーの使命は重大です。親学アドバイザーによる「親学」の一大潮流を全国津々浦々から巻き起こしていきましょう。

(2006年12月)

「親学の教科書」「親学アドバイザーの手引き」(いずれもP1
ります。価格は、各1,600円+税、送料は80円でございます
中の若い世代へぴったりのプレゼントです。



深謝！天下に恥じず
西村真悟先生時事通信

7月10日の参議院議員選挙、比例区は悩ましいものがございました。

参議院選挙の最終結果が確定した。

その確定までに、次々と決まってゆく各地の当選者が語る、当選の弁や勝因そして選挙の争点を

TVで聞いた。そのうえで、自分がこの参議院選挙で、「国家の大事」と主張し続けたことを振り返った。愕然とすべきは、先の時事通信で指摘した国防や北朝鮮による拉致被害者救出に関して発言する当選者はいなかったことだ。

そこで、この朝、改めてお伝えしておきたい。

私は、国家の真の大事を掲げ、天下に恥じない選挙戦を戦った、と。このこと、在天の父に報告した。

そして、この天下に恥じざる戦いを、共に戦ってくれた全国の同志、温かく支援してくれた多くの全国の皆様、さらに、今、この時事通信を読んでくれているあなたに、心より、感謝して、祖国と皇室の安泰と、拉致された同胞の無事を、切に祈り申し上げる。

まことに、ありがとうございます。

平成 28 年 7 月 11 日(月)

大津寄章三先生のブログご紹介 ～つき BON の誤解をおそれず言わせてもらえば～

春にはめざす会幹事・大津寄先生の退職祝いを！という声もございましたが、そのままになっております。先生が退職後始められたブログを、めざす会のHPのブログに掲載させていただいておりますが、このたびご自身のことについて書かれた2通をここに掲載させていただきました。

《プロフィール》

四国に住む元教員のオイサンぞな。今までは公務員じゃったんでなかなか立場上いいことも言えなんだ。ほじゃがフリーになったからには思うたこと、考えとることまるたま言わせてもらおうわい。言葉足らずで誤解されることもあるかもしれんけど、そこらへんはブログ名に免じて許してつかあさい。趣味は昭和30年代のマンガとアニメぞなもし。

～ 教員の習慣 ～



長い間教員をしていると、体にしみついた時間感覚というものからは容易に抜け出せない。ボクサーが時計も見ずに3分間を正確に知るように、教員もまた50分の授業時間を感覚にしみこませているものである。

退職した後も時計をみるたびに「二時間目がそろそろ終わるな」とか「今ごろ給食配膳室の前は混雑してるだろう」「今日は雨だから外庭掃除の子は古新聞をもらって窓ふきをしているな」などと学校生活と時刻を重ねあわせる癖がぬけきらない。

また、ほぼ毎日のように（今でも時々）授業の夢を見た。それもチャイムが鳴っているのに今日使うプリントが刷れてないとか、教材が見あたらない、などというあせりまくりの場がなぜか多い。

私は長く演劇部の顧問を務めていたが、夢の中ではほとんど通し稽古もセリフ覚えもできていないのに、開演時間が迫っている、という修羅場ばかりが登場する。今までよほど時間に追われて生きてきたのであろう。

昨夜は30年前の教え子との同窓会があった。みんな中年のおっさん、おばさんになっていたが、いったん座を囲むといつしかみんな中学生の顔に戻っている。しばらく忘れていた「先生」に自分が戻っていくのを感じた。

子育ての苦勞、職場の悩み、病気の話、来られなかった友人の動向、故郷の移ろいなど、中には政治情勢について熱く語る「生徒」もいた。

次にあうのは五年後。それまでがんばって生きておらねば。

2016/07/18(月) 07:09:36

～ 時速 1.5 kmの風景 ～

このブログも80本を越えた。

こうしてほぼ毎日更新しているのは、むろん自分が好きなことを表現せんがためであるが、もう一つは周囲に「おおい、オレはまだ生きてるぞ」というシグナルを送るためでもある。昨秋の人間ドックで思いがけない病を得ていたことがわかり、以来長短4回の入院を繰り返した。

私の自慢はほぼ「健康」だけであり、小一の二学期から高校を卒業するまでの足かけ12年間、欠席・早退・遅刻のたぐいは皆無である（小一の一学期になぜ欠席したかという下校中タクシーにはねられたからである。目撃していた友達の話によると数メートルはふっ飛んだらしい）。

長年、健康は空気のように私について回り、去年までは暇があると河原に出かけ、5キロ10キロとジョギングに汗を流すことも多かった。史跡を訪ねる山道も苦にせず踏破でき、三階への授業は階段二段飛ばしで駆け上がるのが常であった。運動部の顧問になったときは指導技術のなさを部員と一緒に大汗を流すことだけでカバーしていた。

病気の影響で脚の付け根に痛みがはしるようになり、以来普通には歩けなくなった。30分ほど書店内でうろうろ立ち読みするのが限度である。むろんこの半年間は一歩たりとも走るなどできず、これは終生続きそうな予感がする。

胸骨にも病巣があるため、長く机に向かっているものもしんどく、一定時間横にならなくてはいけない。ちょっとした正岡子規の気分である。

さらに投薬の影響からか、味覚がひどく鈍くなった。カラー写真と白黒写真ほどの差、といえはいいだろうか。たとえばあまり甘くないバナナなどはほとんど何の味もしないし、甘味のつよいバナナはえぐい甘さの砂糖をなめているようである。汁物はほぼ辛いだけ、マヨネーズ系は苦さだけが際だっている（酸っぱいものは割に判別できる）。

もともとグルメには縁遠く、うまい・まずいには大して関心もなかったのであるが、美味に舌鼓をうつ、という経験が失われたことはボディブローのようにこれからじわじわと精神的に効いてくるかもしれない。

年齢とともにあちこちの能力や働きが衰えてくることは万人が迎える当然の現象である。私への到来は少々予定より早かったが、なんとか現職は定年まで勤め上げたし、その間にライフワークともいべき身に余る仕事を全うすることもできた。秋山好古は「男子は生涯一事を為せば足る」と言ったが、なんとなく一事を為したのかな、という気もする。少なくともこの60年間は並の（というのは失礼であるが）80年間よりずっと濃かった、という実感だけはあ

松陰は三十少して処刑された偉大な教育者であるが、「どのような短い人生にも春夏秋冬がある」という言葉を残している。いろんな自由が自分から抜け出し、したかったことがずっと狭まったことは悲しいが、そのみを見つめていても何の生産性も展望もない。冬には冬なりの過ごし方があるのだろう。

幸いこうして文をしたためることもできるし、車で遠出することも可能である。上り階段は少し苦手であるが家の中なら移動できる。視覚・聴覚ともに問題はなく、90分程度の講演もこなせることがわかった。精神活動は健在である。

今まで人の二倍以上の早さと密度で歩いてきた。しかし、人の半分以下の速さでしか歩けなくな

◆◆◆ 事務局から ◆◆◆



★救う会愛媛の会費払込票を同封致しました。会費は千円でございます。ご協力下さいますようお願い致します。★放送法遵守を求める視聴者の会の署名活動にもご協力下さいませ。

★座して学ぶ時代は終わった！学びながら駆けるとき！ではないという気がしてなりません。折しも、「日本の歴史に学ぶ会」の総会（6月26日）で、愛媛大学大学院生の三浦夏南（こなん）くんが『ひの会』の復活を宣言されました。三浦さんは竹葉秀雄先生を実践の人とされ、「ひの行者」となり、「ひの運動」を展開することを誓っておられます。

★「子ども食堂」ということばをよく聞くようになりました。貧しくて晩ご飯を食べることができない子供たちのために様々な団体が炊き出しをしているようです。愛媛県には松山市清水町に月1回運営している団体があります。おばさん（私・青井）にはどうしてもピンと来ません。が、将来、親学をしっかり身につけた私たちが、たとえば、子供食堂を運営し、その保護者に親学を伝えていく、という図は如何でしょうか。

★ここ数ヶ月、新しい職場（大学受験塾）での仕事の準備に追われっぱなしでした。とくに、「一番詳しいから気に入った」と経営者がいうぶ厚〜い文法書の中3・高1を対象に週2回する授業は馬鹿げていて工夫に工夫を重ねても苦痛でしかなく、しかも生徒はお客様だから叱らない注意しないという塾風についに辞表を提出。出会った中高生の前途を祈っております。これから基礎講座開講に向けてまっしぐら！といきたいところです。

★平成27年度の収支決算書を同封させていただきました。めざす会の活動を支えて下さりありがとうございます。7月現在のアクティブ会員は120名でございます。

★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は現在、2,000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子 〒791-0221 東温市上村甲218

電話 090-8971-7721 Fax 089-964-3903

<http://www.mezasukai.com/> メール michikoaoi25@yahoo.co.jp